

議会広報広聴特別委員会 行政視察調査報告書

- 1 視 察 日 2026年7月15日（水）～16日（木）
- 2 視 察 先 調査事項 ○島根県出雲市
・議会だよりの編集について、他
○鳥取県湯梨浜町
・議会だよりの編集について、他
- 3 視 察 者 委 員 長 前 田 敦 司
副 委 員 長 須 山 泰 一
委 員 青 柳 順 子
委 員 小 森 弘 子
委 員 小 谷 裕 子
委 員 辻 出 誠
委 員 西 垣 秀 昭
議会事務局 中 川 光 典



出雲市にて意見交換



出雲市議場にて



湯梨浜町にて意見交換



湯梨浜町庁舎前にて

日 時	2026 年 7 月 15 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
視 察 先	島根県出雲市
調査項目	議会だよりの編集について
調査内容	出雲市議会を訪問し、「議会だよりの編集方法やリニューアルの取り組みについて説明を受け、意見交換を行った。 出雲市議会では、「市民に読まれる議会だよりの目指し、紙面のデザインや編集方法の見直し、デジタル媒体との連携など、さまざまな工夫を行っている。
所 感	今回の視察では、「市民に読まれる議会だよりの目指し、紙面構成や情報発信方法を継続的に見直していることが印象的であった。 特に、一般質問の記事を QR コードと簡潔なコメントに変更したことにより、編集作業の効率化と紙面の見やすさを両立している点は大変参考となった。 また、小学生の絵画などの作品を表紙に採用することで市民の関心を高める工夫や、議会だよりを高校・大学へ設置、公式 LINE の活用など、若い世代への情報発信にも積極的に取り組んでいることが分かった。 一方で、市民からの反応を把握することや、紙媒体とデジタル媒体をどのように使い分けていくかは、出雲市議会においても共通の課題であることが確認できた。 今回学んだ取り組みや工夫については、今後の本市議会の議会広報紙の充実や、より開かれた議会づくりに活かしていきたい。

日 時	2026 年 7 月 16 日（木） 午後 1 時 00 分～午後 2 時 30 分
視 察 先	鳥取県湯梨浜町
調査項目	議会だよりの編集について
調査内容	湯梨浜町議会では、議長を除く全議員が議会広報常任委員会に所属し、2 班体制で交代しながら年 4 回「議会だより」を編集・発行している。 編集会議を複数回開催し、一般質問や委員会審査の記事は議員が分担して作成・確認を行うなど、議員自らが主体的に広報活動へ関わる体制が確立されていた。 また、定例会終了から約 1 か月で発行しており、迅速な情報発信を実現していることも大きな特徴であった。担当や締切りを明確に定め、事務局との連携を密にすることで、短期間での編集・校正を可能とした。専門用語はできるだけ抑え、住民にわかりやすい表現に置き換え、文字数を抑えながら余白を効果的に活用し、写真を多く取り入れることで、雑誌のように親しみやすい読みやすい紙面づくりを行っていた。 生成 AI については、一部の議員が文章の校正やイラスト作成など活用しているものの、議会として統一した運用基準は現在検討段階ということであった。一方で AI の利便性を認めつつも、広報紙の信頼性や住民との距離感を損なわないように慎重に活用する姿勢が示されていた。
所感	今回の視察を通じて印象に残ったのは「住民に読まれること」を最優先に紙面づくりを行っている姿勢である。 議会として伝えたい内容を詰め込むのではなく、住民が関心を持ち、最後まで読んでもらえる構成やデザインを追求することが、議会への理解や関心を高める第一歩であることを改めて認識した。 また、紙面改善にあたっては、若手議員の意見を積極的に取り入れ、新しい発想を柔軟に採用している点や、他自治体の優れた事例を積極的に参考にしながら改善を重ねている点も印象的であった。 議会広報は一方的な情報発信ではなく、住民とのコミュニケーションツールであるという考え方のもと、令和 7 年度からは Google フォームと電話受付を併用した読者アンケートを導入し「興味を持った記事」「改善してほしい点」などを把握し、今後の編集に反映させる取り組みを開始している。 住民の声を継続的に収集し、広報改善につなげようとしている姿勢は大変参考となった。